

回 覧

令和7年度「小さな親切」運動 会員加入のお願い

あいさつや声かけ、きれいなまちづくりのために自分ができることを実践することが「小さな親切」運動です。

A（あいさつ運動）B（美化活動）O（思いやりの心で）を『「小さな親切」運動 ABO 』と名付けました。

年会費を自ら払って会員になり、まず自分から行動する。そして、家庭内、ご近所、そして、地域へ、杵築市の全域に。

会員数が増えることで運動が広がりますので、皆様のご加入をお願いします。皆様からいただいた会費（浄財）は、児童生徒の健全育成（「小さな親切」作文の表彰、実行章の推薦など）、また、学校や地域での花いっぱい活動の助成などに使われます。

現在の杵築市の親切会員数は、合併当時から半数以下まで減少しています。存続の危機に瀕していると言えます。活動のメインでもある親切作文の取り組み、学校や地域での花いっぱい運動の助成などに支障をきたす状況です。

つきましては、運動の趣旨に賛同いただける方は、お近くの中央公民館・地区コミュニティセンターに用意してある会員加入申込用紙で申し込み、直接年会費500円の納入をお願いします。

（なお、領収証を発行しますので、お受け取りください。）

あわせて、本年度も「タオール一本運動」の取り組みとして、家庭にある未使用タオル・バスタオルを提供いただき、高齢者介護施設へ寄贈する活動に取り組んでいますので、会員加入の有無にかかわらず、賛同いただける方は、上記の窓口まで搬入をお願いします。

（枚数は、一家庭1～2枚まで、無地に限らず広告入りで構いません。）（「親切」新聞111号を参照ください。）

あくまでも任意の団体で、強制するものではありません。上記会費は当運動の活動費用となりますので、単年度ごとに納入していただいています。（裏面のR6会計報告を参照ください。）

「小さな親切」運動は、1964年の（初回）東京オリンピック開催の前年東大の茅誠司総長の提唱で始まった国民運動で62年目になります。本支部は山香町支部から今年で54年を迎える伝統のある支部です。合併した杵築市支部としては16年目となります。徐々にではありますが、市内全域に運動が広がる事を願っています。

誰でもできる日々のあいさつとゴミを散らさないなどのきれいなまちづくりは、おもてなしの気持ちを伝える取り組みにつながります。多くの皆さまのご賛同をいただくとともに、住みよく明るい『杵築市』になるように各自ができる「親切」の実行に努めましょう。

令和7年7月

（代表世話人）渡辺 雄爾・西 紀子・土谷恵美子

「できる親切をみんなでしようそれが社会の習慣となるように」

令和6年度 収 支 決 算 書

[収入の部]

「小さな親切」運動 杵築市支部

項 目	予 算	決算額	増 減	備 考
繰 越 金	56,647	56,647	0	通帳 56,647 円
会費収入	300,000	252,500	-47,500	会費(本部・支部)
寄 付 金	30,000	18,000	-12,000	
雑 収 入	3	62	59	利息
合 計	386,650	327,209	-59,441	

[支出の部]

項 目	予 算	決算額	増 減	備 考
会 費	50,000	49,000	-1,000	本部納入金(中央会費)
事業費 A	45,000	64,000	19,000	啓発活動、花いっぱい運動
事業費 B	100,000	98,601	-1,399	実行章、親切作文表彰、参加賞
推進活動費	10,000	8,000	-2,000	分会・役員活動費
会 議 費	8,000	4,940	-3,060	会場使用、お茶
通 信 費	7,000	3,708	-3,292	切手、ハガキ、送料・手数料等
事務用品費	5,000	3,239	-1,761	ファイル ノート 他
印 刷 費	80,000	21,339	-58,661	印刷・コピー代、新聞印刷
研 修 費	0	0	0	
旅 費	20,000	20,000	0	作文全国表彰出席補助
雑 費	40,000	0	-40,000	
予 備 費	6,650	0	-6,650	
事務局費	15,000	15,000	0	二役手当
合 計	386,650	287,827	-98,823	

[収支の部]

収入合計		支出合計		収支決算額
327,209	—	287,827	=	39,382

残金 39,382 円は 次年度へ繰り越します。

「小さな親切」実践宣言都市 「小さな親切」しんぶん

○発行 杵築市支部
○責任者 渡辺雄爾
○事務局
〒879-1307
杵築市山香町野原1010-2
山香中央公民館内

杵築市支部から16年目



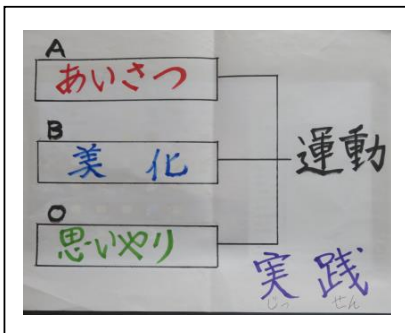
令和七年の「小さな親切」運動の定期総会は、六月二〇日山香庁舎310室に泥谷市議会議長・県本部堀田庫士代行などの来賓を迎えて開催されました。参加は二十数名。今回は「小さな親切」作文の五〇年を記念して作文審査に関わった人へ感謝状の授与が行われ、更に、昨年の全国優秀賞の作文も紹介しました。

総会の協議の中で、個人会員の加入促進、市民への運動の周知のための広告塔を設置する計画も提案されました。また、「花いっぱい活動」、「タオル一本運動」の実施も決定しました。

「個人会員」に加入を

平成一八年の合併時に「小さな親切」実践都市宣言を行い、四年後に杵築市支部となりました。当時の会員数は約千人でしたが、それ以降は、会員は減少して現在は三分の一ほどになっています。推進員の不足、会員の高齢化と「親切」運動の周知不足などが考えられます。

これからも運動を継続するためには運営会費の確保が必要です。年会費五〇〇円を市内中央公民館、地区コミュニティセンターの窓口へお持ち下さい。



左上の図のように、あいさつ、美化、思いやりの三運動を実践する「親切」運動に参加しましょう。お待ちしています。（昨年の「作文」県入選表彰の写真）



第49回「親切」作文県入選

- 大分県知事賞
山香小（一年）西 梨花
- 大分県議会議長賞
山香小（四年）坂本 結利
- 大分県教育長賞
八坂小（二年）郡 莉音
- 大分県本部優良賞
豊洋小（四年）大村 文太

「令和六年度 全国入選」
手をさしのべられる

大人になりたい

豊洋小 四年 大村 文太

夏休みにあった出来事です。

ぼくが家族で大分市に出かけている時、おばあちゃんから「杵築駅の近くの信号で車が故しうして道路の真ん中で動かなかったので助けに来てほしい。」と電話がかかってきました。ぼくたちは、すぐに引き返しておばあちゃんの元に向かいました。ぼくたちがとう着すると、おばあちゃんの車は道路のはしっこにありました。話を聞くと、通りすぎた車の中でおばあちゃんのことが気になって戻って来てくれた三人組の男の人がいて、その人たちが車をはしっこに動かしてくれたいということでした。それから、パパの友達でおばあちゃんが車のことをまかせている日出の車屋さんに連れくしたら、「今、おはかまいりで杵築に来ていからすぐに行く。」と言ってくれました。

車屋さんがとう着して、故し

ような原因を調べてくれました。「バッテリーが上がっているの、ちがう車を用意してバッテリーケーブルをつないでエンジンをはかるしかない。」と教えてくれました。その人は、たまたま杵築に来ていてそのままかけつけてくれたので、バッテリーケーブルを持っていませんでした。それから、パパが有廣寿斗君のお父さんに電話したら、その日は仕事で忙しいのにバッテリーケーブルを持ってこころよくかけつけてくれました。そして、バッテリーケーブルをつないで、おばあちゃんの車のエンジンが無事にかかりました。

寿斗君のお父さんがなれた手つきで車のエンジンをかける様子を見て、かっこいいと思いました。その後、また車が止まったらいけないので、寿斗君のお父さんが修理工場に着くぎりまで後ろを着いて来てくれました。

ぼくは、今回の出来事を見ていて、自分が同じ場面に出会った時に助けてあげることが出来るだろうかと考えました。たまたま通りすぎた三人組の人にしても、一度通りすぎた後に心配になってわざわざ戻って来てくれておばあちゃんを助けてくれたことがすごいと思いました。

おばあちゃんの車が道路の真ん中に止まっているので、通りすぎる車の中にはクラクションを鳴らしていく人もいたそうです。でも、三人組のようにおばあちゃんの車をはしっこまで動かしてくれる親切な人もいました。その人たちは、車を移動させたなら、名前も言わずに立ち去ったそうです。クラクションを鳴らされて心細い思いをしていたおばあちゃんにとつて、三人組の人たちは神様のように思えたかもしれません。

すぐにつけてくれたパパの友達の家屋さんと寿斗君のお父さん、通りすがりの戻って来てくれた三人組の人たちのように困っている人がいたら手をさしのべてあげられる親切な大人になりたいと強く思いました。

(令和6年度 県本部優良賞)

あとがき

合併して二十年目、「小さな親切」運動は杵築市全地区へ広がっていくのでしょうか？

杵築市議会の中で取り上げていただいたり、ケーブルテレビで「総会」の様子を流していただいたりしています。

会費を出して「親切」会員として意識して行動する運動がこれまで「親切の町」を支えてきました。この運動の参加数を増やすことを目指しています。地区コミュニティセンターに立ち寄って、受付をお願いします。毎年の皆さんの会費が「花いっぱい運動」や「小さな親切」作文の参加賞などに使われています。

親切の心は他者を思いやる「共助」が基本です。64年目の「親切」運動が引き続き行われるよう願っています。

“できる親切はみんなでしょう。それが社会の習慣になるように。”